終助詞「か」の日中対照研究

―日本と中国の小説に基づいて―

朱　ケイハン

１.はじめに

終助詞「か」は、文末に用いられ、基本的に問いかけの真偽疑問文、疑問詞疑問文と選択疑問文がある。一方で、中国語にも真偽疑問文の特徴を表す語気助詞「吗」と疑問詞疑問文に用いられ疑問を表す語気助詞「呢」がある。

日本語の終助詞「か」は疑問文以外に、イントネーションを変えながら、反語、自己確認、感嘆など、様々なモーダルな意味の表現がある。

中国語の語気助詞は、文末に現れ、疑問、推量、感嘆、強調、確認など、話し手の心的態度を表す。また、疑問符と感嘆符がよく使われているため、より話し手の感情が分かりやすい。一方で、終助詞「か」の文を見ると、「君も一緒にいくか」のように質問と確認の意味が紛らわしいことがある。

それ以外に、大西（1990）は、よく終助詞「か」と同じように考えられる語気助詞「吗」は、「か」と同じ文末で疑問のモダリティが表せるが、応用面で違うことを指摘していた。また「ではないか」のような終助詞「か」と関わる用法は、それに対応している中国語の「不是……吗」という形式もあるが、张（2014）はコーパスに基づいてそれらの使用頻度と形態分布について考察し、会話中の「ではないか」と「不是……吗」の表現機能の差を指摘していた。

日本語学習者にとって、円滑なコミュニケーションを行うため、終助詞の使い方は極めて重要である。しかし、終助詞の使い分けは、終助詞の意味が分かるだけではなく、会話の場面や話し手の判断なども含めて考える必要がある。

本稿は、終助詞「か」に着目し、日本語と中国語の小説とその翻訳本に現れる終助詞「か」が使われる各文の前提を考察し、発話の条件と話し手と聞き手がもっている情報を合わせて研究する。そこで、終助詞「か」が含まれる各文と対応している中国語との会話上の差を考察して、中国語母語話者が日本語の終助詞「か」を学習する時、どのように改善すればいいかを提案したい。

２.研究の背景

2-1. 研究の動機

『みんなの日本語』の初級２冊の学習項目を調べると、「か」は、初級レベルの初めに導入されていることが分かった。その中には「あの人は木村さんですか」のような真偽疑問文、「それはボールペンですか、シャープペンシルですか」のような選択疑問文、また「あなたは何をしますか」のような疑問詞疑問文が多い。さらに、「いい先生を紹介していただけませんか」のような依頼や誘いの意味を表す文もある。それ以外の用法は提出されていない。

中国語と日本語は同じく、形式上は疑問文であるが、機能は非疑問文のことが多い。話の前後の文脈を分析しないと、非難や反語という非疑問文の機能が確定できない。

一方で、「んじゃないか」のような相手への問いかけ性が弱い疑問文は、中国語でよ

く陳述表現で翻訳されている。また「んですか」の使い方について、「ですか」と比べると、話し手が見たり、聞いたりして得た情報から、状況を確認することや、理由を尋ねる、相手が話したことにより詳しいい説明を求めるなどの機能がある。しかし、中国語の翻訳から見ると、普通の「ですか」の文と同じ翻訳がされていることが多い。それも中国語母語話者が日本語の終助詞「か」を使う時に誤用が生じる原因の一つだと考えられるのではないか。

筆者は、日本語を話す前に母語で考えるという時期があったため、中国語母語話者が「か」に対する理解不足で誤用が定着したのか、あるいは母語干渉のせいで問題が生じたのか、それを解明しないと「か」の問題が解決できないと考えている。

中国語母語話者は日本語の終助詞「か」を学習する時、疑問・質問以外の用法をどのように習得するか、誤用がどのように回避できるか、中国語母語話者として、中国語の語気助詞との対照からそれを解明したい。

2-2. 先行研究の評価と課題

様々な研究者が日中対照言語分析の方法で、日本語と中国語の疑問文や終助詞との類似点と相違点を考察していた。

よく終助詞の「か」と同じように考えられている中国語の語気助詞「吗」は「か」より使用されている疑問文の数は少ないということが分かった。「吗」は真偽疑問文の疑問のモダリティを担っているが、終助詞の「か」は真偽疑問文以外、疑問詞疑問文や選択疑問文など、さらに疑問文の機能が消える非疑問文にも使える。中国語にも他の語気助詞があるが、それぞれの疑問文の形式にいちいち対応しているわけではない。そこで、中国語の語気助詞は終助詞「か」を研究するための一つの研究手段として使えるが、全く終助詞「か」と同じに考えられるというわけではない。

また、日本語の不定称と疑問称という形態上の区別は中国語には表現できないと指摘されている。日本語は疑問詞の形態で疑問文の類型を区別する。一方で、中国語は疑問詞があるか否か、語気助詞があるか否か、また文末のイントネーションで疑問文の類型を区別することが分かった。さらに、中国語は疑問詞がある真偽疑問文を用いて、日本語の疑問詞疑問文を表すこともある。

さらに、疑問文という形式であるが、疑問文の本質特徴を備えていない「のではないか」文は、発話者が相手に自分の不確定の考え方を示し、それによって相手の同意を求める。それは中国語の翻訳ではより直接な陳述表現で表すことが多い。また、「んじゃないか」は「不是……吗」という表現の形式もあるが、会話上の機能には相違点がある。

以上のことから、日本語の終助詞を研究するためには、中国語の語気助詞の機能や疑問文の類型だけではなく、会話の文脈に入れて考えないといけない。特に反語や非難というニュアンスを持っている疑問文は、形式上は真偽疑問文や確認の疑問文であるが、前後の文脈で考えないと、終助詞「か」がある疑問文の本当の機能が分からないという問題点が存在していると思う。

2-3. 研究の目的

終助詞「か」は文法書の中で、その機能は「疑問」と定義されることが多い。初級、中級レベルのテキストには、明らかに真偽疑問文と疑問詞疑問文のような基本的な用法が多い。一方で、相手の答えを求める「お茶でも飲んでいきませんか」のような誘い、また「荷物を持ちましょうか」のように相手のための働きかけの用法は、終助詞「か」の「疑問」という機能と対応していないのではないかと考えている。

また『みんなの日本語』初級の第１０課に、以下のような会話文がある。

Ａ：すみません。アジアストアは　どこですか。

Ｂ：アジアストアですか。あのビルの中です。

これは、実際の会話の中で、相手の問題のポイントを確認して答える場合である。また、この確認文は「亚洲超市吗？」という真偽疑問文を代表する「吗」で翻訳されているが、文脈を考えないと、単なる「亚洲超市吗？」を見れば真偽疑問文の問いかけの機能と勘違いしやすい。では、終助詞「か」の質問と非質問の境はどのように弁別できるのだろうか。

中級・上級の学習者になると、文法シラバスではなく、機能シラバス・場面シラバスの場合が多い。初級レベルで「か」があると疑問文であるという理解が定着してしまっている可能性がある。では、終助詞「か」と関わる非疑問文はどのように中国語母語話者に教えるか。

中国語では、終助詞「か」と対応している語気助詞を用いずに文を表現することが多い。また、文化の背景が違うため、形式と意味は同じように思われる日本語と中国語も、文脈中に持つ機能が違うこともある。文型を重視して日本語の終助詞「か」を身に付ける日本語初級レベルの学習時期では、中国人日本語学習者の母語干渉を解決するため、どのように工夫すべきなのか。

上述したことから、以下の３点を本論の目的とする。

① 終助詞「か」を使う文と中国語の翻訳を対照して、終助詞「か」の機能を考察し、中国語の語気助詞との共通点と相違点を明らかにする。

② 中国語学習者が終助詞「か」が使われる文を学習する時の困難点を考察する。

③ 終助詞「か」の誤用が減少できるように、中国語母語話者の各レベルに応じた指導方法を提案する。

３．研究の方法

研究方法は以下の通りである

1. 東野圭吾の『容疑者Ｘの献身』と中国人作家蝴蝶蓝の『全职高手』の日中翻訳版から終助詞「か」が使われている文を収集する。

2. 収集した例文を前後の文脈も含めて、エクセルに打ち込んでデータベースとする。

3.「カ」「ダロウカ」「ジャナイカ」「ノカ」「ノダロウカ」「ノジャナイカ」「ショウカ」のような終助詞「か」に前接する成分を基に分類する。

4. 分類した「カ」「ダロウカ」「ジャナイカ」「ノカ」「ノダロウカ」「ノジャナイカ」「ショウカ」をさらに前接する品詞別に分類し、それに対応する語気助詞の数を表にまとめる。

5.先行研究を基に、収集した「カ」「ダロウカ」「ジャナイカ」「ノカ」「ノダロウカ」「ノジャナイカ」「シヨウカ」の機能をまとめ、それに対応する中国語の表現形式と合わせて表にする。

6.5 で作成した表を基に、中国語の語気助詞の類似点と相違点を考察する。

7.相違点が生じた原因を考察する。

8.指導方法を提案する

４．相違点が生じた要因

4-1.終助詞と語気助詞の機能

様々な研究者は中国語の語気助詞を用いて日本語の終助詞「か」の機能を考察していた。終助詞「か」は「カ」以外、「ダロウカ」「ジャナイカ」「ノカ」「ノダロウカ」「ノジャナイカ」「シヨウカ」という真偽疑問文や疑問詞疑問文以外の機能がある。中国語の語気助詞はそれにいちいち対応しているわけではない。

終助詞「か」と対応している中国語の文の語気助詞はよく省略されている。それは中国語は語気助詞だけで疑問のモダリティを表すわけではない。日本語では文末の終助詞「か」を省略し、単なる上昇イントネーションを用いて疑問のモダリティを表すことと同じ、中国語の真偽疑問文も語気助詞を使わずに上昇イントネーションで疑問のモダリティが表せる。また、反復疑問文という述部の肯定と否定を並行させるという形式で疑問のモダリティを表すことができる。

しかし、日本語と違い、中国語の真偽疑問文は語気助詞がない時、発話者は疑問に対して、答えをすでに持っているという傾向性がある。中国語の真偽疑問文の語尾に付ける語気助詞「吧」と「呢」も、発話者の一種の推測のモダリティを表しているため、発話者は聞き手の答えを予測しているという傾向性がある。また、「啊」という発話者の気持ちを強くするモダリティを表す語気助詞は、真偽疑問文の文末に用いられると疑問のモダリティが表せる。

中国語の疑問詞疑問文も疑問詞を用いて相手に不明なところを尋ねるが、疑問詞で疑問のモダリティを表すので、語気助詞はあまり使われていない。

また、疑問文と陳述文の語尾に語気助詞が付いている時、同じ語気助詞でも機能は違う。日本語の終助詞「か」と対応している中国語の翻訳は疑問文かどうかという区別で語気助詞の機能を考察する必要がある。

4-2. 機能を表現する時の差異

機能を表現する時の差異は疑問文・質問文ではない終助詞「か」の文に反映することが多い。日本語では、判断不明・思考過程・疑念という独話の用法以外、発見や応答などの機能もある。一方で、中国語は疑問文だけではない、陳述表現でそれが表せる。

中国語の陳述表現で表せる終助詞「か」が使われている文の機能を以下の１１点にまとめた。

1. 納得の疑問文
2. 反語解釈
3. 思考過程

4. 疑念
5. ある判断への傾きを含んだ問いかけ
6. 応答
7. 共有知識を思い出させる
8. 気づくべきことを気づかせる
9. 発見
10. スコープを広げる
11. 不確定な意見を伝える

納得の疑問文は発話者が発話の時点ですでに心の中の疑問という部分が消えてしまうので、中国語は疑問文ではなく、よく陳述表現で発話者の考え方を表現している。あるいは「哦。」という表現で発話者は聞き手の情報を得た後の納得のモダリティを表している。

また、反語という発話者の意志を強く主張するための用法は、真偽疑問文の反語という用法で表現する以外、陳述文でそのまま発話者の意志が表せる。

「ダロウカ」について、思考過程という疑問の解消に向けてありうる可能性を検討していることを表す独話の機能は、中国語では陳述表現で自分の推測を表し、問いかけ性がないということが分かった。同じ、命題に対して否定的な方向に傾いているということを表す独話の疑念の用法は、中国語も陳述表現で自分の意志を表す。陳述文でも使える語気助詞があるが、使わなくても自分の意志が表せる。

一方で、「ダロウカ」の判断不明という独話の機能について、発話者にとって不明の点があることを表すものであり、情報に当惑を感じる状態を表しているため、中国語は真偽疑問文で発話者は命題に対する不明というモダリティを表す。

「ジャナイカ」は発話者がある判断への傾きを含んだ問いかけを表す用法である。中国語は語気助詞がない真偽疑問文や陳述表現でそれを表現する。語気助詞がない真偽疑問文は問いかけ性が弱いため、答えに対する傾向性という発話者自身の判断を表す。陳述表現はそのまま発話者の意見を表し、問いかけ性が全くない。

相手が忘れていることを思い出させるという機能については、中国語の「不是……吗」という真偽疑問文の形式に翻訳できる。一方で、中国語の「不是……吗」の形式は会話上で自分の観点を聞き手に強く押し付ける反語の機能のほうに近い。あるいは、「呢」を使う陳述表現で発話者が確信していた事実を強く主張することができる。

聞き手に気付くべきことを気づかせるという非難のニュアンスを持ちやすい機能は、同じく語気助詞がない真偽疑問文の反語という用法や「啊」を使う陳述表現で自分の気持ちを相手に伝える。また、発見という独話の機能は、問いかけ性がないため、「啊」を使う陳述表現で表す。

「ノカ」のスコープを広げるという用法について、文全体を相手に尋ねるのではなく、特定の部分を念押しして聞き手に尋ねるので、文脈に基づいて陳述表現で発話者の意志を聞き手に伝えることができる。また、中国語の真偽疑問文で発話する時、疑問のフォーカスを強調して発話する必要がある。そうしないと、「カ」と紛らわしいことがある。

「ンジャナイカ」の発話者の不確定な意見を伝えるための機能は、相手に問いかけるのではないので、中国語は陳述表現で発話者の意見をはっきり相手に伝える。

4-3．文脈によるニュアンス

終助詞「か」と対応している中国語の翻訳は主に真偽疑問文、疑問詞疑問文、真偽疑問文と同じ機能の反復疑問文、また陳述用法、祈使句である。

真偽疑問文や疑問詞疑問文という不明なところを相手に尋ねる機能は中国語も真偽疑問文と疑問詞疑問文で表現することができるが、反語、非難、勧誘などの機能について、中国語は前後の文脈で理解しないと分かりにくい。

反語解釈の場合、中国語は日本語と同じ、平叙文と終助詞「か」という形式で、逆の判断が成り立つことを前提として聞き手に問いかける。しかし、実際はその前提を確認させるということは、発話者はもう心の中に答えに対する傾向性があるため、真偽疑問文という反語の機能で発話者の意志を強く主張する。しかし、反語解釈という機能は文脈で理解しないと分からない。形式は、日本語も単なる真偽疑問文と同じものである。

非難のニュアンスを持つ疑問文も同じ形式なので、真偽疑問文と間違えやすい。また、文脈によって非難のニュアンスか発話者の不満を表しているかも区別しにくい。

文脈には依頼・許可の文について、中国語は真偽疑問文で相手に自分の要求を受け入れるかどうかを尋ねるが、真偽疑問文は依頼・許可の機能を表せないので、文脈全体で依頼・許可の機能を表すことになる。

一方で、祈使句という発話者の命令・願望を表す文は文末に「吧」をつけることによって、文全体がやわらかくなり、依頼・許可が表せる。

また、「ショウカ」の機能について、申し出、提案、促しという前提条件は文脈を理解しないと分からない。中国語真偽疑問文や祈使句で翻訳することができても、その前提条件は表現できないのである。

4-4．日中文化の違い

中国語は真偽疑問文で日本語の疑問詞疑問文を表すことがある。中国語は日本のように「誰」や「誰か」、「何」「何か」のような疑問称や不定称が区別できないため、疑問詞と語気助詞「吗」両方を使い、まず命題が真か偽かを相手に尋ね、もし肯定と返事されたらまた具体的疑問詞の内容を相手に尋ねることができる。

「そうか」「そうですか」のような納得の疑問文は中国の文脈ではよく省略されている。また、「わかるか」「わかりましたか」という相手に自分が話した内容が分かるか否かを尋ねる真偽疑問文が省略されているのは、中国語の文脈ではより直接自分の意見を相手に伝えているからである。あるいは中国語の断定のモダリティで自分の意志を表している。そのため、「そうか」という納得の疑問文や「わかるか」ともう一回相手に尋ねる真偽疑問文は省略されても文脈に影響しない。むしろない方がより中国語らしい会話である。

５．まとめ―指導の提案―

日本語の終助詞「か」が使われている文について、よく真偽疑問文や疑問詞疑問文という疑問・質問の用法が中国語学習者には定着しているが、初級レベルでも、それ以外に反語、納得、「ショウカ」など問いかけ性が弱い用法があることを意識させる必要がある。

初級レベルで、真偽疑問文や疑問詞疑問文という機能ははっきり文法シラバスで教えられているが、中級レベルになると、場面シラバスや機能シラバスで文脈の前後で終助詞「か」

が使われている文を理解することになる。文脈で発話者の気持ちを理解しやすいので、それは必要だと思うが、一方で場面シラバスで中国語母語話者は自分の母語で終助詞「か」の意味を考えるため、わずかな差異を生じる可能性がある。文型シラバスという指導で、終助詞「か」の機能をはっきり分類して、指導する必要もあるのではないかと考えている。問いかけ性が弱い疑問文について、中国語は陳述表現で自分の意志を表すことができる。そう説明することによって、中国語母語話者は疑問文の特徴を備えていない周辺疑問文を理解しやすくなるのではないか。

依頼・許可・勧誘という自分の要求を相手に受け入れるかどうかを尋ねる時、中国語の陳述用法や真偽疑問文はそれらの機能を表す。しかし、真偽疑問文で依頼・許可・勧誘の機能が表せるのではなく、文全体の意味でそれらの機能を表している。そのため、語気助詞と終助詞「か」が対応するのではなく、語気助詞を使っている、あるいは使わない文の機能と終助詞「か」が使われている文全体とを対応させる考え方を中国語母語話者に身に付けさせることが大切だと思う。

また、日本語は中国語で翻訳できない「ですか」「でしょう」を用いて丁寧のモダリティを表すという文化の差異を教える必要がある。一つの理由は発話者と聞き手の関係が理解できること、もう一つは中国と日本の文化の差異で、終助詞「か」に対する学習に影響することがある。よく「じゃないか」と同じと考えられる中国語の「不是……吗」という真偽疑問文の形式は、日本語の「じゃないか」の機能と全く同じわけではない。「不是……吗」は「じゃないか」のように会話を進める機能を持っていない。一方で、中国語の「不是……吗」という形式は「じゃないか」より確認性がもっと強く、反語に近いということも、文化の差異で生じたと考え、単なる文型として理解すると、両者の差異や「じゃないか」の正しい使い方は定着しにくいと思う。

そのため、コミュニケーションを重視した日本語教育において、会話を進めていく機能やテクニックも教授すべきである。一方で、中国語と日本語との文化の差異によって、同じ機能である文でも、二つの言語の会話場面で使うとニュアンスが違う。そういうことに注意しないと、その言語らしくない会話になるかもしれない。そのため、会話場面における終助詞「か」の機能を教授することは大切である。

要するに、中国語母語者に対して、終助詞「か」が使われている文は疑問・質問という機能以外に他の機能もあることを意識させる必要がある。その上で、場面シラバスや機能シラバスで学習する時においても、文型シラバスも活用すべきである。中国語の様々な表現手法を用いて、周辺疑問文という問いかけ性が弱いという用法も身に付け、終助詞「か」だけではなく、文全体の機能を考えるという習慣を養成する。そして、会話場面で生じた日中文化のニュアンスの差異を学習する。

本稿は、小説を用いて会話文や独話のデータを収集して、終助詞「か」が使われている文の各機能を考察したが、すべての機能が観察されたわけではない。より詳しい機能の分析は、小説ではなく、実際の会話例に基づいて考察する必要がある。

＜参考文献＞

相原茂　監修　片山博美　守屋宏則　平井和之　訳（1996）『現代中国語文法総覧』　くろしお出版社

（2012）「浅谈语气助词“呢”」淮北师范大学文学院
藤原与一（1990）『文末の言語学』　三弥井書店
井上優（2014）「文末助詞と付加疑問」第 38 回中日理論言語学研究会
井上優（2016）「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」『日本語文法研究のフロンティア』225-242
輿水 優（1985）『中国語の語法の話―中国語文法概論』　光生館
仁田義雄　安達太郎　雨宮雄一　高梨信乃　野田春美　宮崎和人　2003　『現代日本語文法４　第８部　モダリティ』くろしお出版
大西智之（1989）「中国語と日本語の否定疑問文」『中国語学』236 号 105-115　日本中国語学会
大西智之（1990）「“吗”と「か」」『中国語学』237 号 82-91　日本中国語学会
庞黔林（2004）「论日语的疑问与非疑问」『日语学习与研究』Vol.2 22-26　『日语学习与研究』編集委員会
彭广陆（1999）「日汉语疑问代词与疑问句的关系」『日语学习与研究』Vol.1 29-34　『日语学习与研究』編集委員会
重光雨青（2009）「中文疑問句中之語氣助詞「啊」的功能：與日文「のだ」的對照」真理大學 人文學報 第八期 155-182
王瓊（2017）「語気助詞「啊（a)」による共有知識の提示―疑問文末用法を中心に―」KLA Journal Vol.4 10-19　東京大学人文社会系研究科
張恵芳（2004）「关于日语推测语气表达“のではないか”的考察」『日语学习与研究』117 号 Vol.2 15-21　日本中国語学会
張恵芳（2014）「「デハナイカ」与“不是……吗”的对照分析」『日语学习与研究』Vol.5 61-66　日本中国語学会
赵卫 白晓红（2006）「对外汉中语气词“吧”的教学策略」天津大学国际教育学院

＜用例出典＞

東野圭吾　2008　『容疑者Ｘの献身』　文芸春秋株式会社
東野圭吾　2008　『嫌疑人Ｘ的献身』　南海出版公司　翻訳者：刘子倩
蝴蝶蓝　2016『全职高手 1』　羊城晚报出版社
蝴蝶蓝　2015『マスター・オブ・スキル』　リブレ出版株式会社　翻訳者：山中未穂
『みんなの日本語初級Ⅰ　本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ　本冊』　1998　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ　翻訳・文法解説　中国語版』　1998　スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ　翻訳・文法解説　中国語版』　1999　スリーエーネットワーク

（シュ ケイハン　姫路獨協大学大学院生）

zqf9624@docomo.ne.jp